

第 71 回 日本 P T A 全国研究大会広島大会

富士市 P T A 連絡協議会

副会長 上野英樹

第 70 回日本 P T A 全国研究大会広島大会に参加してきました。

今年度の大会スローガンは『変化の時代に向け、PTA 自身が学びの変化を！～見つけ 考え かわろうや ぶちたのしい!!～広島から全国へ』が掲げられました。

8 月 25～26 日の二日間で分科会は広島県内各地 8 会場、2 日目の全大会は広島グリーンアリーナで行われました。

初日分科会は呉市で開催された第 6 分科会、防災教育に参加いたしました。

静岡県は東海地震に備えています。

今回広島では広島豪雨災害での現状、またそれらの教訓を生かした取り組みなど自分たちの視点とはまた違う対策がとても興味深いものでした。

地震と豪雨はまったく違うものですが共通する点もあり取り入れられることが多々ありました。

また富士市では津波も想定されており、水という点ではかなり参考になるものがありました。

2 日目の全体大会では黒川伊保子氏による記念講演がおこなわれました。

演題は「心のトリセツ」、～「逃げ癖」を「意欲」に変える脳科学～でした。

AI の研究者としていろいろな話が聞けてとても楽しい時間でした。

今 PTA に関して様々なメディア、SNS などでいろいろな問題が取り上げられています。

この全国研究大会も新型コロナウイルスの関係で中止、リモート開催などありましたがこの数年いくつかの大会に参加してきましたが今回の広島大会は以前と比べて大きな変化がありました。

それはスタッフの数が激減していました。

いままでは駅を降りれば会場までの間のぼり旗を持ったスタッフが立ち並び、会場周辺を取り囲むようにスタッフが立ち並んでいました。

一日目の分科会の呉駅、会場の入り口にもスタッフの姿はありませんでした。

会場入り口に看板とのぼり旗があるだけでした。

二日目の全体会は会場周辺に誘導などのスタッフがいるだけでした。

PTA が負担に思われているこのご時世、保護者にとっては負担軽減につながりとてもいいことではないかと思えます。

上部団体から率先して改革を行いなるべく負担を少なくすることはこれからの PTA 活動においてはとても重要なことではないかと思えます。

保護者が自分から進んで参加し楽しめるように広島大会の内容だけでなく全体像をこれからの PTA 活動に役立てていきたいと思えます。